

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2774300301
法人名	社会福祉法人 石井記念愛染園
事業所名	グループホーム あいぜん
訪問調査日	平成 20 年 6 月 11 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 18 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2774300301
法人名	社会福祉法人 石井記念愛染園
事業所名	グループホーム あいぜん
所在地	大阪市浪速区日本橋5丁目16番19号 (電話) 06-6634-8969

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年6月11日	評価確定日	平成20年7月18日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 3 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 3.9 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5 階建ての 5 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円	
敷 金	有(135,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無○	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.4 歳	最低	84 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	檜山診療所(内科・精神科) 愛染橋病院 米永歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体は大正6年に設立した社会福祉法人石井記念愛染園である。玄関を入ると「天は父なり、人は同胞なれば互いに相信じ、相愛す可き事」という児童福祉の父と言われる創設者石井十次の言葉が目につく。事業所は5階建ての最上階に位置するが、中庭や周辺(屋上)に木々が植えられ、癒しに工夫された設計には感心させられる。開設して8年目を迎えているが開設時からの職員や利用者も多く、お互いに支えあう暮らしが静かに続けられている。半年前に昇格した若い管理者の認知症介護への熱い思いとベテラン職員たちの落ち着きが調和した運営が行われている。利用者が家族との絆を大切に維持しながら事業所での暮らしが続けられるように、管理者および職員は工夫と努力を重ねている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価結果を職員に報告し、課題改善に向けて周知徹底を図っている。前回の課題の安全確保の徹底への取り組みが行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に当たっては、職員各自が自主的に手分けして作業して行われた。、職員の改善への意識も高く、管理者を適時に補佐するなどが出来ている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の民生委員。地域包括支援センター、社協、職員で構成した運営推進会議が定着している。近隣との交流に関する議題や事業所サイドからの情報発信についても意見交換が行われている。地域の代表者がこの会議を通じてグループホームへの理解を深めている様子が議事録から読み取れる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者および職員は家族が参加した利用者への支援を重要と考えて、家族とのコミュニケーションを良くする事に努めている。家族の訪問時には利用者の暮らしの様子を詳しく報告するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	民謡教室や、週に1回の自治会のシーツ交換ボランティアなどを利用して利用者と地域の交流に取り組んでいる。地域の行事には積極的に参加するように努め、運営推進会議を活用して、認知症に対する地域の理解を深める活動も行っている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」である。事業所独自の理念を職員で考えて、「認知症を抱えてもその人らしく、人間らしく、豊かな日々を暮らして頂くように、ご入居者の暮らしを中心に」とし、目に付く玄関に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人創設者の精神を受け継ぎ、管理者と職員は日々の業務の中で理念を共有し、確認しあいながら、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には積極的に参加している。運営推進会議を活用して、地域の認知症に対する理解を深めるべく交流に努めている。民謡教室や、週に1回の自治会のシーツ交換ボランティアなどを利用して利用者と地域の交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を職員に報告し、課題改善に向けて周知徹底を図っている。今回の自己評価に当たっては、職員各自が自主的に手分けして作業するなど、職員のモチベーションも高く、職員が管理者を補佐し個々の役割を果たしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は民生委員、地域包括支援センター、社協、職員で構成している(家族は自由参加)。問題点などのついて活発に意見が交わされ、事業所の業務や役割を地域の代表者に理解して貰うように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	浪花区の地域連絡会(医療、介護、保育等)に参加して事業所の情報の公開を行い、事業所のサービスの質の向上のための情報収集に努めている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	小口預かり金、使用明細書等の報告を月1回ご家族に報告している。その時に利用者の1ヵ月の様子を時系列に経過報告として、お手紙に記載し送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の議事録をご家族が来訪時に閲覧し、情報公開に努めている。家族からの意見、苦情、相談等を気軽に話せる様に雰囲気づくりに努めている。日頃から家族との良好なコミュニケーションづくりに取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は開設当初から勤務者が多く、お互いに馴染みの関係を保っている。職員と利用者の関係が成熟し、あうんの関係で結ばれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トピックス的な研修会、勉強会、は随時開催している。ケースカンファレンス、機会教育、OJTにも積極的に取り組んでいる。計画的な研修については十分とは言えない状況である。	○	現状ではシフト体制などを考えると、外部、内部研修会、勉強会への参加が困難な状況であった。今後は職員の知識、技術の向上の為のにも、外部、内部研修会、勉強会の年間計画を立案し、積極的な参加と自己研鑽を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	浪速区のネットワーク(病院、福祉)やわらぎ会を設立、その中で眼科、歯科、認知症に関する専門知識の情報交換に努めている。そこで得た専門知識を現場で活用し、役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と職員が暮らしを支え合うためには、利用者の周辺症状、行動等を把握し、信頼関係を築き、理解を深め、職員同士が問題点も共有して行く事が大切であると認識している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入所前には愛称で呼ばれていた利用者が、入所後も本人の希望で敬称でなく愛称で呼ぶ事で本人との信頼関係を築いた例がある。利用者の思いや希望を大切に支持援している。介護日誌を詳細に記入して絶えず問題意識を持ちながら観察していく様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は共同生活のあり方、介護計画、見取り等について常日頃から話し合いを持ち、信頼関係を築いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者にとって何が大切かを考え、本人、ご家族の要望を聞いて介護計画を作成している。ケースカンファレンスで検討、月1回の全体会議にかけて意見を集約し、介護、支援、実践に向けた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングした項目は効果的に介護が遂行されているか評価を行い、変化があった時は見直して本人、ご家族の意見も取り入れ介護計画に盛り込んで行く様にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や特別な外出、外泊支援など利用者やご家族の要望に柔軟に対応している。またショートステイも地域からの要望があれば、対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	檜山診療所との信頼関係が築かれ、急な往診にも迅速に対応してくれる体制になっている。4階の特養の看護師とは日々の病状、症状を記載し、助言、指示を仰ぐ事が出来るパソコン情報システムを構築している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	見取り指針を作成している。本人の思いを大切に、事業所が出来る事、出来ない事(医療行為)を家族と納得行くまで話し合い、理解を頂いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者ひとり一人のプライドを大切に、対応の仕方に注意をはらっている。個人情報に関係した書類は書庫へ保管している。退職者にも秘守義務の重要性を説明し、情報が漏れないように注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思や体調を大切に、共同生活との調和を図りながら日々楽しく生活出来る様に努めている。要望に応えれないときには、素直に利用者に相談する。職員が出来ないことを利用者に伝えられるような信頼関係を作るように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を活かしながら、買い物、調理、食事、後片づけを利用者と一緒に行っている。栄養のバランス、盛り付けの工夫で楽しく食事が出来る様になっている。職員と談笑しながら、食事を楽しんでしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴を計画している。浴槽は槇造りで温かみがあり両サイドから使用出来る様になっている。職員は利用者の生活パターンを尊重し、要望に合わせた入浴支援に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理手伝い、買い物など生活全般を利用者と共に行っている。活躍する場や機会を求めている利用者が殆どで、やりがいを見出すことで喜びを感じている。散歩、外食、レクリエーション、個人や集団での楽しみ作りにも努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣には公園等の環境が少なく、外出はもっぱら車を利用しての遠出である。動物園、公園に出かける機会を多く設け計画的に実行している。毎朝、近くの地蔵参りを欠かさず続けている利用者には希望に沿った支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由を尊重し、問題行動を防ぐ為の施錠は行われていない。夜間は一般家庭と同様に玄関の施錠を実地している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体行事で年2回利用者の誘導方法を意識した消防、避難訓練を実施している。避難場所は玄関前と定め、災害の時は法人全体で協力体制をとり、消防署、地域のネットワークを利用し協力支援を得られるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の合間にティータイムを設け、利用者1日1000mlを目安に摂取する様に心がけている。医師に指示にて水分摂取量が必要な利用者については、チェックを行い管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入るとまず目に入るのが立派に手入れされた中庭の植木に心が癒される。居間と居室は回廊型の廊下で接続され、採光を充分に取り入れた設計で5階に居るのを忘れる程に周囲は緑で一杯である。いやな雑音、臭気等もなく、利用者、来訪者にも心地よく過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所が用意した備品は、押入れ、洗面設備でその他は利用者自らが自宅から持ち込んだベット、家具、装飾品などが居室に置かれている。整然と整理され、掃除が行き届き、利用者夫々の居心地の良い居室作りになっている。		